

産学官連携におけるコーディネート活動—富山大学における取組みⅢ

- 千田 晋（富山大学地域連携推進機構 産学連携部門リエゾンオフィス 富山大学 TLO 長、特命教授）
高橋 修（富山大学地域連携推進機構 産学連携部門リエゾンオフィス 主任コーディネーター）

背景

我が国の産業競争力維持向上はイノベーションなしには語れず、各業界を取り巻く内外の状況は大きく変化し、省庁を上げた“破壊的イノベーション創出”の必要が最近特に強調されている。大学の知を産業界、地域へ積極的に移転することの重要性が指摘され、従来の技術オリエンテッドな手法に代わり例えば、文部科学省における COI（Centre of Innovation）構築の考え方として“バックキャスト手法”が提示され、拠点が指定されている。その施策効果については、今後の実績の積重ねを期待する段階にある。また、“地域課題”に立脚し最短での“社会実装”を目的とした「我が国の未来を拓く地域の実現に関する調査研究」（H26 JST 調査事業）では“根拠のある地域課題”に目を向ける機会となった。イノベーション創出の観点から、これまで漠然と“リエゾン活動”として産学官で取組んできた活動について、あるべき姿を考察してきており、富山大学での取組みの考え方を紹介する。

取組み内容

富山大学では H19 承認学内 TLO として活動をはじめ、近年は知財、リエゾン領域を合せて活動

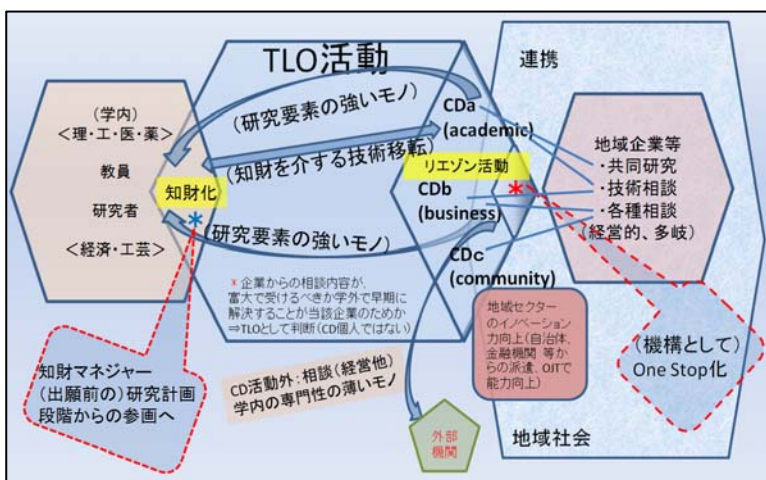


図1 富山大学における産学官連携運営の概要

しており、内容としては学内創出知財（企業との共同研究を含む）の権利化は知財マネジャーが担当し、学内研究者と企業との間を仲介、技術移転を主に担当するコーディネーターと連携して活動している。更に、学内外に向けて（外部資金獲得の）提案もコーディネーター活動として取組んでいる。図1は既に報告したものであり、産学官連携を模式化、コーディネーター活動を CDa、CDb、CDc

に類型化、各機能解析については前回までに報告したとおりである。（参考4）、5）

大学として責任を持つべき範囲(CDa)に特化し、企業の経営に関わるものは学外の適任機関が主体的に支援することでベストソリューションにつなげる必要がある、地域金融機関との連携については前回報告した通りである。地域中小企業の知財経営力向上を意図して、今年度からは本学のサテライト技術相談の場に富山県発明協会より発明相談員も同席することとした。技術・発明相談の相乗効果を期待している。また、地域におけるイノベーションのためには、例えば、地域行政機関（県庁等）との連携も必要である。そこで昨年、本学と富山県庁との連携事業協定に“新たなモノづくり”方法を提案、“地域課題”探索からの連携を模索した。

図2にはその際の新聞報道を示す。自治体との連携に関して、「地域課題からのバックキャスティング」による「オールとやま」でテーマアップを図る仕組み構築に向けて新たな取組みを始めたもので、はからずも上記JSTの調査事業の求めるスタンスと同じ方向性であった。

連携推進会議を受けて、県庁知事政策局と当部門で協議を行ったが、県政課題に優先順位を付けるに至らず、具体的な課題とモノづくりの接点となる分野は当方から提示することとなった。



図2 富山県・富山大学連携推進会議の記事



図3 富山県・富山大学連携推進事業の趣旨

図3には地域課題からのバックキャスティングによる課題設定と社会実装を想定した新たなモノづくりのフレームワークを示した。産学官がそれぞれの役割を果たし、地域課題を具体的に解消する方法の構築が求められている。

考察

産学連携活動に必要な資質を習得する MOT 人材育成に関しては既に本会(参考1)、2)、3))にて報告の通り博士及びポストドクに対す

る技術経営の視点習得の有効性が示され、URAの資質向上にも有益と考えられる(CDa)。TLO活動実務においては、従来グレーゾーンであったコーディネート活動を、連携組織間の役割として峻別、地域金融機関(信金)の役割については前回報告した(CDa、CDb)。地域社会全体のイノベーション力向上を期待するには行政との連携により社会実装されることが必要であると考えられる。また、地域のMOT力向上に向けた取組みにも注力していく必要が認識された(CDc)。

参考：

- | | | | |
|-------------|----------|-------------|----------------|
| 1)千田：産学連携学会 | 関西・中四国支部 | 第1回研究・事例発表会 | 資料 M1-7(2009) |
| 2)千田： | 同 | 第2回研究・事例発表会 | 資料 M2-12(2010) |
| 3)千田： | 同 | 第3回研究・事例発表会 | 資料 M3-14(2011) |
| 4)千田、高橋： | 同 | 第4回研究・事例発表会 | 資料 M4-17(2012) |
| 5)千田、高橋： | 同 | 第5回研究・事例発表会 | 資料 M5-11(2013) |